

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】			科目の教育目標
		公共政策、地域社会、地域文化、情報デザイン、芸術デザインなどの専門知識や技能を踏まえ、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 外国語の基本的運用能力を身につけている。	(3) 現代社会の諸問題や地域課題の解決に必要な情報を収集・分析した上で、総合的な観点から課題の解決にかかわる的確な提言を行う能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 他者との協働を踏まえ、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる。								
教養科目群	歴史と文化														人間、文化、社会、自然に関する幅広い学問領域から、「ものの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。	
	人間と生命									○					・人文科学分野(歴史学、思想、倫理学、文学、芸術、考古学、地理学、文化人類学など)を中心に学ぶ。 ・人間が創造してきた文化や社会の特質、またはそれらの変遷等を学ぶ。 ・様々な地域、時代、分野の人間の営みを学ぶことで、これからの世界で生きていくために必要な、「物事を複眼的に捉える知」を身につける。	
	生活と社会		◎		○			○							・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの根元的な問いを思索することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野(哲学、倫理学など)、行動科学分野(心理学、教育学など)、生命科学分野(生物学、生命科学など)を含む複合的な分野を学ぶ。	
	自然と技術										○				・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代において、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につける。 ・自然科学に工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。	
	ウェルネス総合演習										○	○			・健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにしながら講義と演習、実習により総合的に学び、考える。	
	創成科学科目群															現代社会の諸問題を学び、それらの課題を主体的に捉える態度を身につける。
	グローバル科目		○			○									・異なる価値観や文化を知り、それらを認め合い、さらに積極的なコミュニケーションを図るグローバル人材として必要なことを学ぶ。	
	イノベーション科目									○	○				・さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。	
	地域科学科目		○		○			○	○						・地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指し、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。	
基礎科目群															大学での専門分野を学ぶ前提となる基礎学力を修得する。	
	SIH道場							○	○	○	○				・専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。	
	情報科学							○	○	○					・情報の取り扱いやその倫理などの情報リテラシーの基本に加え、コンピュータの活用方法を学ぶ。 ・数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。	
外国語科目群															英語や初修外国語の学習を通じて、各言語の運用能力を養成し、日本語とは異なる言語の世界への理解を深めることを目指す。	
	英語														・基礎英語力及び英語コミュニケーション力を養い、十分な言語運用力と自律学習スキルを取得する。 ・基盤英語は、高校までに身につけた英語力の充実を図り、大学で自律的に学習を続けるための基礎力をつくる。 ・主題別英語は、科学・時事・文学・文化などのコンテンツを英語で学び、基盤英語で身につけた英語力と自律学習スキルのさらなる向上を図る。 ・発信型英語は、自信を持って、英語でコミュニケーションをするための話す力と書く力を身につける。	
	初修外国語														・英語と異なる外国語の運用能力の基礎を固め、その言語の世界における物事の見方や考え方に対する理解を深める。	
	総合科学入門講座		○		○			○	○						・日本語で論理的文章を書く能力の基礎を身につける。 ・情報リテラシーを身につける。 ・総合科学部で行っている幅広い研究の一端を知る。 ・留学その他の学習プログラムについて理解する。	

ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		公共政策、地域社会、地域文化、情報デザイン、芸術デザインなどの専門知識や技能を踏まえ、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 外国語の基本的な運用能力を身につけている。	(3) 現代社会の諸問題や地域課題の解決に必要な情報を収集・分析した上で、総合的な観点から課題の解決にかかわる確かな提言を行う能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 他者との協働を踏まえ、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる。	
科目名									
学部共通科目	データ分析入門		○			○			現代の情報化社会を生きていく上で、さまざまなデータを分析したり、ソフトウェアを扱ったりする機会はますます増えている。諸君がどの専門研究分野に進むにせよ、方法や程度は違っても情報処理の重要性は変わることがない。客観的なデータに基づく検証は、科学における認識の基礎である。また、諸君が卒業後に専門的職業人として活躍するのは、情報処理を避けて通れない。定型的な日常業務はもちろん、重要な意思決定シーンでデータに基づいた的確な判断を求められることは多いだろう。総合科学部では、こうした情報リテラシーをステップごとに身につけるため、体系的なカリキュラムを提供している。学部共通科目「情報処理基礎論」は、そのプラットフォームと位置づけられる科目である。この授業では講義と実習を通じて、統計学に関する基礎的な知識を学び、データ分析のための実践的な技能を身につけることができる。
	総合科学の基礎A						○		現代日本の基本的なしくみ（構造）と、その適切な運用について理解することを到達目標とする。日本語を母語とする者としての最低限必要な知識（音声・文法・語彙など）と、その具体的な運用を実践的に学び、高めていく。
	総合科学の基礎B								
	総合科学の基礎C						○		人文科学(哲学)に関わる幅広い知識の理解を目標とする。日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
	総合科学の基礎D							○	スポーツ健康科学における各領域の研究課題について理解する。
	総合科学の基礎E						○	○	1. 心理学に関する基礎的な学術的知識を修得している。 2. 地域住民の健康増進との関連において、心理学の基礎的な学術的知識を修得している。
	総合科学の基礎F	◎	○		○		○	○	1. 公共政策の理念と制度体系を説明できる。 2. 公共政策学の現代的実態と課題を説明できる。
	総合科学の基礎G	◎	○		○		○	○	ミクロ経済学の理論的な考え方の習得と基本事項を厳密に把握し理解する。
	総合科学の基礎H	◎	○		○	○		○	高校までに社会学を学んだ人はほとんどいないだろう。そうした人々に対して、社会学的な思考法を教えることがこの講義の目的となる。身近なところで起こっている社会現象が、どのようなしくみでなっているのか、それを意識的に考えてもらうことで社会学のものの見方を身につけることを目標とする。
	総合科学の基礎J	○			○	○	○	◎	国際化の進展に対応できるような、「地域から世界を理解し、世界と協働する力」を養うことである。そのために、学生が世界各地の地域社会で生じているグローバルな課題を自らの学びやキャリアに接続し、主体的に行動できるよう支援する。あわせて、異文化理解・国際コミュニケーションの基礎や国内外の
	Academic English I				◎				English for Global Purposesをテーマとして、日本文化及び日本時事を扱う英語の文章を学習する中で、高等学校で学んできた英語のルール(英文法・文型の基本など)と単語熟語力を再確認し、英語を読む力と多少早いスピードで聴く力を定着させる。また、英語で「日本」を考え、理解し、既存の英語力で発信できるようにする。
	Academic English II				◎				(1)英語で行われる大学の授業に必要な英語の基礎技能を習得する。 (2)英語の資料を読み、基本的なレベルの英語のレポートを書き、英語でプレゼンテーションができる。
Extensive Reading				◎				e-ラーニングを利用した、英語多読及び語彙構築プログラムでの学習を通じて、4000語レベルまでの語彙力・速読力を到達目標とする。継続的自律学習で英語力の維持及び向上をはかる。	
キャリアプラン入門	◎	○	○	○	○	○	○	大学の現実と課題を各自が理解し、大学における真摯な学び(広い教養と専門的力の養成)の重要性を自覚し、今後4年間の学習計画を立てることによって、卒業後も自律・自立して学習できる姿勢を身につける。	
課題発見ゼミナール	○	○		○	◎	◎	○	1. 文献・資料・データ等の収集ができる。 2. 文章を論理的に読み理解できる。 3. 文章を理論的に書くことができる。 4. 自身の関心についてプレゼンテーションできる。 5. 社会問題の解決方法について他者とコミュニケーションを取りながら討議できる。	

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		公共政策、地域社会、地域文化、情報デザイン、芸術デザインなどの専門知識や技能を踏まえ、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 外国語の基本的運用能力を身につけている。	(3) 現代社会の諸問題や地域課題の解決に必要な情報を収集・分析した上で、総合的な観点から課題の解決にかかわる確かな提言を行う能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 他者との協働を踏まえ、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる。			
実践学習科目	キャリアプラン			○			○	◎	◎		1) 自己理解を深め、将来ビジョンができるだけ具体的に描ける。 2) 将来ビジョンと現状の差異(課題)を把握し、その解決に取り組むための行動計画が策定でき、具体的な行動を始めることができる。 3) 行動する上での課題解決力や人間関係の形成について理解する。
	インターンシップ基礎			○			◎	○	◎	○	①事前学習により、社会人として必要な知識を理解し、社会人、職業人として相応しい行動がとれる。②学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに、課題解決に努め、これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。
	短期インターンシップ			○			◎	○	◎		①事前学習により、社会人として必要な知識を理解し、社会人、職業人として相応しい行動がとれる。②学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに、課題解決に努め、これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。
	実践力養成型インターンシップ			○			○		○	◎	徳島県内の企業・団体が抱える課題に対して、受入先と学生が協働してミッションの達成を目指す、実践型のインターンシッププログラムにより、社会人としての素養(職業人意識)やコミュニケーション力を磨く。
	グローバル日本語交流					◎		○	○		サマースクールプログラムに参加することで、実践的な語学運用能力を高め、同時に国際交流プログラムの運営と実施によって、マネジメント、コーディネート、リーダーシップの能力を身に付ける。
	国際交流・協力体験			○	○	○	◎	○	◎		1 国際交流、国際協力について基本的な知識を得る。 2 広い視野、国際的な視野を持つ。 3 行動力・積極性を身につける。 4 社会性・対人関係を身につける。
	海外実践プロジェクト					◎		○	○		・外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。 ・グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創生に貢献できる。
	地域デザインコース入門講座			◎	◎		○	○	◎	◎	現代社会が抱える様々な問題に対して、公共政策的観点から解決策を提示できる能力を身につけることを目指す。
	経営学 I			◎	○		○			◎	経営学の基礎的な用語と概念を理解し、かつ説明できる。 企業の経営戦略や論理を理解することができる。 理論を実社会に落とし込み考察することができる。
	憲法 I			◎	○			○		◎	1. 信教の自由と政教分離を理解できる 2. 経済的自由と規制の意義を理解できる 3. 社会権としての諸権利の意義を理解できる 4. 立憲主義の制度としての裁判所の意義、役割を理解できる。
	民法 I			◎	○			○		◎	1. 民法総則および物権総論に関する基本的な知識を習得すること 2. 具体的な法律問題において、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うこと 3. 民法典の全体像を理解すること
	国際関係論 I			◎	○	○	○			◎	1. 政治学の基本的知識を得る。 2. 国際政治学と国際法の基本的知識を得る。 3. 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について基本的な知識を得る。 4. 幅広い国際的な視点から考察ができる。 5. 現実主義と理想主義の両面を備えた、バランスある発想ができる。
	地域政策論 I			◎	○		○			◎	本授業では政治学、国際政治学、国際法学の知見を踏まえながら国際関係論の基礎として歴史と理論に焦点を当てて学修を行います。歴史に関しては、第一次世界大戦までの「勢力均衡」、第一次世界大戦後の国際連盟を中心とした「集団安全保障体制」、第二次世界大戦後の国際連合および地域機構の取り組み、国連の平和活動、他国で発生している紛争への介入の問題について学びます。また、リアリズムやリベラリズムといった国際関係論の代表的な理論を学び、各時代でどのような観点

科目名	ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】		
	ディプロマポリシー	ディプロマポリシー	公共政策、地域社会、地域文化、情報デザイン、芸術デザインなどの専門知識や技能を踏まえ、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 外国語の基本的運用能力を身につけている。	(3) 現代社会の諸問題や地域課題の解決に必要な情報を収集・分析した上で、総合的な観点から課題の解決にかかわる確かな提言を行う能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 他者との協働を踏まえ、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる。	科目の教育目標				
地理学の基礎 I			◎	○		○								経済や情報のグローバル化が急速に進む現代において、地域のかたちやしくみはどうかあるべきかが問われている。あらゆる経済活動は地域の資源や市場を前提に成立しており、私たちのくらしは農業、工業、商業など産業の立地によって支えられている。そうした地域と立地のメカニズムを系統的かつ論理的に考察するのがこの授業の目的である。授業ではチューネン、ウェーバー、クリスタラーに代表される古典立地論を詳しく解説した上で、現代における立地論の新たな展開と応用について学ぶ。また、日本や世界の産業地域とその形成要因について説明する。
地理学の基礎 II			◎	○		○								日本および欧米地域の村落・農村空間の成立過程について時間的・空間的な展開の中で理解するとともに、「地誌学」の命題である地域的な差異の特徴について把握できるようになること。
まちづくり地域社会論			◎	○		○								社会学や公共政策学の観点から、まちづくりに関する基礎的な知識を身につける。その際、問題解決に向けた事例の理解、改善に向けた分析手法、そこで生じる陥穽について実践に活用可能な形で学べるようにする。
政治学 I			◎	◎		○		○	○					環境政策を具体例として、政策を体系的に理解し、その手法について説明できる
マクロ経済学 I			◎	○										目 標：経済学の基礎理論を理解し、現実の経済問題の経済理論に基づく分析能力を獲得する。 テ ー マ：マクロ経済学の基礎を習得する。
社会変動論			◎	○				○						数十年単位の社会の変化を巨視的に捉えるのが、社会変動論の特徴である。本講義では、そのうち現代社会の特徴を把握するためのさまざまな議論を、個別領域毎に解説していきたい。社会変動に関連して自分で選択したテーマについて、文献を読んでデータを収集し、レポートを書けるようにするのが目標となる。
地域計画 I								○		◎				都市計画とまちづくりの観点から、地域計画の方法や理論を学ぶ。単に知識を身につけるだけでなく、地域計画に対する提案までできることが目標となる。
日本史研究 I			◎	○				○						日本の通史を理解する。 史料をもとめて歴史的事実を確認することができるようになる。 日本の文化や歴史についての理解を深める。 日本語で論理的な文章を読み書くことができるようになる。 日本の通史の中で徳島という地域を位置づけることができるようになる。
考古学概説			○	○				○		◎				日本列島の先史時代は、教科書に掲載されている内容とは相当異なるような形で研究が進化している。その最新の研究成果に触れて、今後の研究テーマを模索するヒントを掴む
グローバル交渉史			○	○				○	○	○				1. 世界の歴史について、体系的、構造的に理解するための基礎的な知識を修得する。 2. 現代社会の諸問題、地域的課題について、その歴史的経緯を踏まえて理解することの必要性を理解する。 3. 異文化理解の難しさを学びつつ、自己の存在を歴史・社会と関連づけて理解することの必要性を理解する。
ネットワーク・アプリケーション研究			◎							○				インターネット時代の情報通信ネットワークの構築や運用管理、活用に関する知識・技術を習得する。 インターネットにおける情報通信の仕組みを理解し、サーバーを構築するために必要となる基本技術を身につける。
マーケティング論 I			◎	○				○						市場の成熟化にともない企業の対市場戦略の拡大より、企業全体にマーケティング志向が必要な時代になりました。マーケティング I では、いかに市場を選択するか、いかに市場を分析するか、いかに市場に対応するかといった企業の基本的行動（戦略）について学習していきます。またマーケティングの基礎と応用を統合し、マーケティングが企業経営の中核になるプロセスを学習します。最終的には、学生自らマーケティング戦略を考え、市場を調査・分析し、解決策を提案できるようになることを目標とします。
データサイエンスデザイン														
公共政策学			◎	○		○			○		◎			1. 公共政策学における諸理論を説明できる。 2. 公共政策学の現代的動向と課題を説明できる。
行政法 I			◎	○				○			◎			1. 行政法の基本原理並びに行政行為についての法的しくみを理解し、行政法特有の法的思考力を養う。

ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		公共政策、地域社会、地域文化、情報デザイン、芸術デザインなどの専門知識や技能を踏まえ、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 外国語の基本的運用能力を身につけている。	(3) 現代社会の諸問題や地域課題の解決に必要な情報を収集・分析した上で、総合的な観点から課題の解決にかかわる確かな提言を行う能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 他者との協働を踏まえ、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる。			
科目名											
商法 I	◎	○					○		◎	商法 I では、株式会社制度の特徴およびその機関について講義を行う。講義全体を通じて、会社法がどのように利害関係者間の私的利益を調整しているか理解するとともに、大規模公開会社における株主総会の意義、取締役会の役割、代表取締役の業務執行の在り方、取締役の対会社責任の意義および問題点、監査役・会計監査人制度の在り方といった個別の問題について考える。	
地域経済論	◎	○					○		◎	農林水産業を中心とした地域資源（農地、林野、漁場等）が歴史的に見た使われ方について説明できるとともに、グローバル経済の下での経済環境の変化について理解して、新しい利用について語る。	
財政学 I	◎	○					○		◎	財政学の基礎的な理解を得る。	
国際経済論	◎	○							◎	第二次世界大戦までの経済史、学説史、学説内容に係わる論点を理解する。	
ミクロ経済学	◎	○					○		◎	数学を用いた厳密な理論で経済理論のメカニズムを把握できる思考力をつけることを目標とする	
マクロ経済学 II	◎	○					○		◎	目標：経済学の基礎理論を理解し、現実の経済問題の経済理論に基づく分析能力を獲得する。	
会計学 I	◎	○					○		◎	企業の行った経済活動をどの様に「認識するべきか、また正しく評価できるのか」といった記録面を理解することから始まり、その結果である財務諸表上から情報の利用者が求める「情報を正しく伝えられるのか」といった報告面を理解することを目標とする。	
憲法 II	◎	○					○		◎	1 表現の自由の意義を理解できる。 2 参政権と選挙制度の意義を理解できる 3 統治の原理を理解できる 4 統治機構論の内、議会、内閣、地方自治を理解できる	
民法 II	◎	○					○		◎	1. 契約法および不法行為法に関する基本的な知識を取得すること 2. 具体的な法律問題において、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うこと	
政治学 II	◎	◎					○	○	◎	環境政策を具体例として、ガバナンス、システム、近代といった政治学の基本について説明できる	
国際関係論 II	◎	○					○	○		本授業では、国際関係論における中心的な議題の1つである紛争と平和の議題について、国際政治学の知見に加え、国際法学や平和学などの知見を踏まえ、国際関係論の学際性を活かした学修を行います。	
経営学 II	◎	○					○			経営組織の特徴、伝統的組織論など、経営組織論に関する主要な概念や理論、財務管理論を習得し、それを応用しながら、組織を管理・運営する経営者の視点により、組織の諸問題について理論的に分析できるようにすることが目標です。	
社会統計学 I	◎						○	○		人文社会科学の実証研究に必要な統計学の基礎理論を学び、データ分析の実践的手法を習得する。	
社会統計学 II	○	○					◎			社会科学の実証研究に必要な統計的知識を学ぶと共に、SPSSを用いた分析もできるようにする。	
地域調査法 A	◎	○					◎	○	◎	・文化人類学・民俗学的なフィールドワークの一連の流れを説明できる。 与えられたテーマに関する文献検索・収集を的確に行うことができる。 ・参与観察・インタビュー調査の基本的技法を修得し、フィールドで適用することができる。 適切な方法・形式で調査データを整理、加工できる。 社会調査・フィールドワークの倫理にかかる基本的な考え方を説明できる。 ・人文地理学的な地域研究の方法を理解し、社会調査・地域調査をおこなうのに必要な基礎知識を身につける ・文化人類学・民俗学的なフィールドワークの基本的な理論と技法を理解し、具体的な事例に適用することができる。 ・地域構造の解明や問題の発見・解決に取り組む研究分野において、「地域調査」が基盤にあることは言うまでもない。本授業では、地域調査の基本的な理論と手法を修得することを目的としている。また空間情報科学の技術と理論を活用した地域調査法の修得も目指す。 ・社会調査とは何かを理解する。	

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標	
		公共政策、地域社会、地域文化、情報デザイン、芸術デザインなどの専門知識や技能を踏まえ、専門分野の融合を図ること、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 外国語の基本的運用能力を身につけている。	(3) 現代社会の諸問題や地域課題の解決に必要な情報を収集・分析した上で、総合的な観点から課題の解決にかかわる確かな提言を行う能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 他者との協働を踏まえ、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる。				
コース基礎科目	地域調査法B	◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	調査票調査の一連の流れを理解し、調査票の作成・調査実施・集計・分析までを的確に実施することができる。コンピューターによる文字・画像・動画データ処理の基本を実践できる。質的データの整理・分析の手法を身に付け、具体的な事例に応用することができる。論理的・効果的で説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 ・地域調査の立案と設計、情報の入手、仮説と検証の手続きなど、地域調査を遂行するのに必要な技術や能力を習得する。 ・文化人類学・民俗学的なフィールドワークの基本的な理論と技法を理解し、具体的な事例に適用することができる。 ・地域構造の解明や問題の発見・解決に取り組む研究分野において、「地域調査」が基盤にあることは言うまでもない。本授業では、地域調査の基本的な理論と手法を修得することを目的としている。また空間情報科学の技術と理論を活用した地域調査法の修得も目指す。 ・簡単な統計分析ができるようになる。	
	空間情報論 I	○					◎				GIS(地理情報システム)とは、デジタル化された地図の図形情報にデータベース機能を結びつけた技術で、地図や空間情報を扱うあらゆる学問分野で展開している。それにともなって、GISの専門的な知識や技術を身につけた人材の育成に対する社会的な要請が高まっている。	
	地域政策論 II	◎						◎	◎		地域政策の中でも、この講義では観光政策を取りあげ、政策の立案・決定・その効果や評価について学ぶ。観光という切り口から、文化、社会、経済の関連について具体的なイメージを持って分析することを目標とする。	
	地域計画 II							◎	◎	○	地域計画IIは総論として、IIは各論として位置づけられる。IIでは、特に過疎地域におけるまちづくりに焦点を当てつつ、悪条件下での地域づくりの理論や手法を学ぶ。これにより、地方にあってまちを維持するための条件を理解できるようにする。	
	地域文化論 I	◎						○	○	○	人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し、異文化(自文化)の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる。	
	考古学調査法	○										発掘調査と出土資料の整理方法の基礎を学ぶ。
	日本史研究 II	◎	◎						○			日本の歴史、特に近世・近代を素材として、歴史的に考える力を身に付ける。また、そこから歴史的特質を読み取る力を身につけ、さらには歴史と文化に対する理解を深めることを到達目標とする。特に史料に基づいて論点を提示し、論理的に説明できるようになる事を目標とする。
	日本史基礎研究 I	○						◎		○		日本史理解の基盤となる史料の読解を到達目標とし、そこから歴史叙述につなぐことができる力を身につける。
	日本史基礎研究 II	○						◎		○		近世から近代の歴史史料の読解を行い、歴史史料を分析する力を身につける。史料を読解することによって、過去の時代の社会や文化の様相を理解することができるようになる。文献資料と地方史料の両方を史料として活用できるようになる。古文書を読解できるようになる。
	東アジア社会文化研究 I	○						○				基礎的な漢文の句法になじみ、返り点にたよらずに簡単な漢文であれば意味をとり訓読ができるようになる。
	C言語プログラミング (実習を含む)	○	◎									C言語を用いて簡易なプログラムを作成できるようになる
	情報創成プロジェクト (実習を含む)	○	◎									PHPとMySQLを組み合わせた動的なデータベース駆動によるWebデザインを実現する技術を習得する。
	現代絵画論	◎							○			この講義は、近代から現代までの絵画理論の理解を深めることが目標であり、その理解を自分のものとするために、理論に基づいた簡単な実技を設定している。実際に描くことにより座学だけでは得られない現代絵画の理解を深めることをめざす。
	写真画像保存技術概論	◎							○			表現された写真画像の識別と時代背景についての認識を深める。
	マーケティング論 II	◎	○					○				私たちは日常生活において多種多様な商品を購入しています。しかしこのような商品はどのように私たちの手に届けられているかについては意外と知らないことが多いです。生産の現場を知ることもなく商品を購入し消費するのは、生産と消費との間に介在する流通が機能しているためです。マーケティングIIでは、流通の役割を担う小売と卸に焦点をあてその取引の仕組みについて学習します。一方で社会・経済環境は常に変化し、IT技術やインターネットの発展によって企業間の取引はますます複雑になっています。現在そして将来の流通システムを分析するための基本的な概念を理解することを目標とします。
行政法 II	◎	○						○			1. 行政行為以外の行政活動の法形式並びに行政救済法についての法的しくみを理解し、行政法特有の法的思考力をさらに深める。	

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】			科目の教育目標
		公共政策、地域社会、地域文化、情報デザイン、芸術デザインなどの専門知識や技能を踏まえ、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 外国語の基本的運用能力を身につけている。	(3) 現代社会の諸問題や地域課題の解決に必要な情報を収集・分析した上で、総合的な観点から課題の解決にかかわる確かな提言を行う能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 他者との協働を踏まえ、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる。								
商法Ⅱ		◎	○						○						商法Ⅱでは、株式の意義、種類株式制度、新株発行による企業の資金調達、企業再編、会社設立等について講義を行います。それにより、企業金融および企業再編の分野において会社法が利害関係者間の私的利益をどのように調整しているか理解するとともに、取引所における取引客体としての株式の意義、種類株式の多様化とその問題点、第三者割当増資に対する法規制の在り方、敵対的企業買収に対する法規制、組織再編の柔軟化とその問題点等の個別問題について受講生自身に考えてもらいたいと思っています。	
民法Ⅲ		◎	○						○						1. 債権法総論および担保物権に関する基本的な知識を取得すること 2. 具体的な法律問題において、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うこと。	
知的財産の基礎と活用		◎	○						○						1. 知的財産制度の全体像を理解する。 2. 学部や大学院で実験を行う際についておきたい知的財産制度の内容を理解する。 3. 社会人として活動するに際して役に立つ知的財産制度の内容を理解する。	
国際協力論		◎	○	○						○					外国文化（異文化）の理解 現代社会や地域の課題を分析する能力の養成 国際感覚の養成 グループ・ワークの実施	
財政学Ⅱ		◎	○						○						【目的】財政学の主要なトピックスについて、自ら考え、分析することができるようになるための基礎的な分析方法を講ずる。 【目標】財政学の考え方をを使って、財政に関わる問題を分析することができるようになる。	
会計学Ⅱ		◎	○						○						日本商工会議所簿記検定試験3級程度の実力を身につけることを目指す。 1 知識（理解）・・・複式簿記の記帳方法を理解するとともに、個人企業の経営分析ができる能力を養う。 2 態度（関心・意欲）・・・財務諸表を通して個人企業のCSR（社会的責任）を身に付ける態度を養う。 3 技能（表現）・・・利害関係者に個人企業の経営状況について、財務諸表を通して説明できる能力を取得する。	
ブランド戦略論		◎	○						○						1. ブランドの基礎概念を理解し、ブランド・エクイティ創造の重要性を考えることができる。 2. 戦略的ブランド・マネジメントについて説明することができる。 3. アパレル産業のブランド戦略と流通システムの関係性を説明することができる。 4. 地域ブランドの具体例を調査分析し、プレゼンテーションすることができる。	
スポーツマーケティング論			◎						○	◎	○				レジャーマーケティングに関する基礎知識を理解するとともに、事業戦略について思慮できる能力を身につける。	
スポーツ経営学			◎						○	◎	○				1.実践科学としてのスポーツマネジメントに関する基礎知識の習得とその応用力を身に付ける	
スポーツ社会学															(1)スポーツ社会学における専門知識を体系的に理解するとともに、人間・健康・身体をテーマで専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。（知識・理解） (2)多様な情報を収集・分析して適正に判断し、科学的思考性や論理的思考性のもとに、身につけた専門技能・技術とモラルに則って効果的に活用することができる。（汎用的技能）	
市民活動論			◎						○	◎	◎				社会運動の意義と運動のなかで培われた表現の文化を理解し、自由と平等という近代的な価値を実現するために必要な思考と実践の構えを身につけること。	
福祉社会学									◎		○				福祉社会に関して、医療や家族との関連を中心に講義する。それにより、現在の福祉が直面する困難について理解し、各人の立場を持てるようにする。	
比較社会学									○	○	◎				1. 移民の事情を学び国際社会を理解することができる。 2. 自国の文化と社会を相対化し、理解することを目指す。 3. 日本に住む外国人の事情を学び異文化理解を深める。	
地域環境論（自然地理学）		◎	○						○		○				自然地理学の根幹をなす地形学と気候学の基礎を理解し、授業に生かせる応用力と実践力を養うことを到達目標とする。地形環境とその歴史的变化の事例をあげて説明できる。自然現象に根ざした人間生活の表象の一つである文化的景観の地域性・多様性を事例を挙げて説明できる。さまざまな気候環境と気象・天気さらには、農林水産業の地域性を関連づけ、かつ事例を挙げて説明できる。	

科目名	ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】		科目の教育目標
	ディプロマポリシー	ディプロマポリシー	公共政策、地域社会、地域文化、情報デザイン、芸術デザインなどの専門知識や技能を踏まえ、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 外国語の基本的な運用能力を身につけている。	(3) 現代社会の諸問題や地域課題の解決に必要な情報を収集・分析した上で、総合的な観点から課題の解決にかかわる確かな提言を行う能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 他者との協働を踏まえ、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる。					
コース応用科目	地域構造論（人文地理学）	◎	◎			○	○	○	◎	地理学において最も重要な研究分野の一つである都市地理学の基本問題を扱う。「都市論」は、工学、経済学、社会学、歴史学、芸術等の幅広い分野において、かつてない大きな関心を集めるようになった。こうした思潮に先んじて、地理学では都市研究に多くの蓄積を重ねてきた。都市地理学と呼ばれる学問分野は、空間的側面から都市の機能や形態に注目し、これを系統立てて理解しようとする。本講義では都市をシステム論的な視点から把握し、都市と都市との関係(inter-urban system)と、都市内部における地域と地域との関係(intra-urban system)の二つの空間スケールから、都市形成のメカニズムを広く考察する。また、日本や世界の研究事例を幅広く取り上げ、現代の都市が直面する課題について空間的視点から検討をおこなう。				
	地域変容論（地誌学）	◎				○	○	◎		絵図・地図の読図を通じて歴史的景観の成立・変容過程についての理解を深め、「地誌学」の命題である地域的特徴や地域的差異について把握できるようになること。				
	空間情報論Ⅱ	◎	○			○	○	○	◎	GIS(地理情報システム)とは、デジタル化された地図の図形情報にデータベース機能を結びつけた技術で、地図や空間情報を扱うあらゆる学問分野で展開している。それにともなって、GISの専門的な知識や技術を身につけた人材の育成に対する社会的な要請が高まっている。そこで本授業では、空間分析の計画から、データの収集、GISを援用した空間解析、結果の発表までを自ら実行できることを目標とする。				
	アフリカ地域研究							○	○	◎	具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造との関連で把握することができる。 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる。			
	地域文化論Ⅱ	◎	○			○	○	○	◎	日本民俗学の基本的な概念を理解し、説明できる。 現代社会における民俗の動態について、具体的な事例を挙げながら説明できる。				
	日本史基礎研究Ⅲ	◎				◎		○		史料の読解:「読み」(字の解読・訓点)と「理解」(意味・様式の把握)				
	日本史基礎研究Ⅳ	◎				◎		○		日本近世の古文書史料を解読できるようになる。 日本近世の古文書史料から歴史的事実を抽出できるようになる。 歴史的事実を実証的に分析する能力を習得する。				
	考古学調査演習		○			◎		○	○	考古学を研究する上で、必要不可欠な技術である発掘調査に参加することを通して、その方法を学ぶ。				
	アジア社会論Ⅱ									現代中国を知る上で必要な歴史を理解する。				
	東アジア社会文化研究Ⅱ	○								基本的な句法・語彙の文であれば、訓点のついていない原文であっても、訓読によっておおよその意味をとれるレベルを目指す。また、自分が関心を持ったキーワードに即して、儒教思想の特色を説明できるようなることを目指す。				
	地域デザイン総合演習Ⅰ	◎	◎			○	○	○	◎					
	地域デザイン総合演習Ⅱ	◎	◎			○	○	○	◎					
	地域調査演習A	◎	○			○	○	○	◎	調査チームの中で討議を重ねつつ、具体的な調査計画を立案することができる。 調査テーマに関する文献資料を的確に収集することができる。 文献の内容を要約し、その骨子を適切に報告することができる。 フィールドにおいてインタビュー調査、観察調査を的確に実施することができる。				

科目名	ディプロマポリシー	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		公共政策、地域社会、地域文化、情報デザイン、芸術デザインなどの専門知識や技能を踏まえ、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 外国語の基本的運用能力を身につけている。	(3) 現代社会の諸問題や地域課題の解決に必要な情報を収集・分析した上で、総合的な観点から課題の解決にかかる的確な提言を行う能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 他者との協働を踏まえ、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる。	
地域調査演習A		◎	○		○	○	○	◎	地域調査の立案と設計、情報の入手、仮説と検証の手続きなど、地域調査を遂行するのに必要な技術や能力を習得する。
地域調査演習A		◎	○		○	○	○	◎	文化人類学的なフィールドワークを計画・実行し、その結果得られたデータを適切に整理・分析することができる。
地域調査演習A		◎	○		○	○	○	◎	地域構造の解明や問題の発見・解決に取り組む研究分野において、「地域調査」が基盤にあることは言うまでもない。本授業では、「対象地域の設定」「調査の準備」「現地調査」「調査結果の分析」「結果の発表・まとめ」までを、実践的に学び、地域調査の理論と方法を修得することを目的としている。また空間情報科学(GISを含む)の技術と理論を活用した地域調査法の修得も目指す。
地域調査演習A									
地域調査演習A									
地域調査演習A									
地域調査演習A									
地域調査演習B		◎	○		○	○	○	◎	フィールドにおいてインタビュー調査、観察調査を的確に実施することができる。調査で得られたデータを適切な形で整理、分析することができる。調査結果を論理的で客観的な文章にとりまとめることができる。調査結果を論理的・効果的な形でプレゼンテーションできる。
地域調査演習B		◎	○		○	○	○	◎	地域調査の立案と設計、情報の入手、仮説と検証の手続きなど、地域調査を遂行するのに必要な技術や能力を習得する。
地域調査演習B		◎	○		○	○	○	◎	文化人類学的なフィールドワークを計画・実行し、その結果得られたデータを適切に整理・分析することができる。
地域調査演習B		◎	○		○	○	○	◎	地域構造の解明や問題の発見・解決に取り組む研究分野において、「地域調査」が基盤にあることは言うまでもない。本授業では、「対象地域の設定」「調査の準備」「現地調査」「調査結果の分析」「結果の発表・まとめ」までを、実践的に学び、地域調査の理論と方法を修得することを目的としている。また空間情報科学(GISを含む)の技術と理論を活用した地域調査法の修得も目指す。
地域調査演習B									
地域調査演習B									
地域調査演習B									
地域調査演習B									
データ表現研究		○	◎			○		○	データを要約するために必要となるアルゴリズムを習得する。また、これをプログラミング言語で実装するための基本的技術や能力を身につける。
芸術創生基礎演習		○	○		○	◎	○		アートキーワードにして私達の住む地域の活性化に貢献できる地域に相応しい作品を構想、制作することで、美術表現の幅を広げる。
メディア情報論						○	○		メディア芸術の理解
メディア表現		○				○	○	○	メディア表現について理解し、作品制作ができるようになる。
映像デザイン		○				○	○	○	・デザインの派生から通時的な役割の変遷を理解する。 ・発想や構想に関する基礎的なデザイン思考の方法論を身につける。 ・色や形など、造形言語による視覚伝達表現や、情報伝達に関わる発想や構想、また用途や機能などを考慮した意匠など、デザインの技法と能力に親しむ。 ・映像メディアの役割を理解し、映像デザインの視点から問題発見、問題解決にアプローチできる。 ・上記のデザイン方法論を美術科の目標に接続できる知識と経験を身につけるようになる。
アート表現基礎		○				○			この授業は、イメージ力を鍛え、制作を通して表現を考える授業である。絵画表現をする上で基礎となる知識や技能を身につけることが到達目標である。
工芸表現と技法(木工と金属)		○				○			工芸と純粋美術の違いは、絵画や彫刻のような純粋美術が生活の中での使用目的を全く持たないことに対し、工芸品は陶芸、手芸、木工などのように日常生活における使用目的を持った要素が多くなる。しかしながら、最近のすぐれた現代工芸は使用目的から離れ、純粋美術に近づいてきている。工芸について理解した上で、現代工芸のあり方を探ると共に、工芸の実技を通して素材への理解や道具を使用する基本的な能力を身につけることを到達目標とする。
彫刻研究						◎		○	彫刻の基本的な手法、彫刻の歴史や技法の移り変わりについて身につけてもらう。そのうえで、実際に彫刻を作成することで、必要な技法を習得できるようにする。
美術概論						◎		○	美術の歴史から、どのような美術の流れが存在し、それぞれにどのような意味があるのか、体系的に理解してもらう。

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】		
		公共政策、地域社会、地域文化、情報デザイン、芸術デザインなどの専門知識や技能を踏まえ、専門分野の融合を図ること、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 外国語の基本的運用能力を身につけている。	(3) 現代社会の諸問題や地域課題の解決に必要な情報を収集・分析した上で、総合的な観点から課題の解決にかかわる確かな提言を行う能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 他者との協働を踏まえ、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる。							
	科目名														科目の教育目標
	絵画表現演習Ⅰ（水性木版画）		◎					◎				◎			描く行為は直接的技法であり、手の動きと密接に結び付いている。しかし、絵画がただ単に現実空間を写す行為でなくなった現代の美術では積極的に間接的技法を作品に取り込むようになってきている。この授業では間接的技法として木版画を制作し、間接技法の多様な経験を積み上げ、表現に広がりを持たせることを目標とする。
	絵画表現演習Ⅱ（油性木版画）		◎					◎				◎			描く行為は直接的技法であり、手の動きと密接に結び付いている。しかし、絵画がただ単に現実空間を写す行為でなくなった現代の美術では積極的に間接的技法を作品に取り込むようになってきている。この授業では間接的技法として木版画を制作し、間接技法の多様な経験を積み上げ、表現に広がりを持たせることを目標とする。
	デザイン表現演習Ⅰ（映像とデザイン）	○	◎					○				○			映像制作の基本を理解する。映像機器や編集機器の扱いが出来るようになる。
	デザイン表現演習Ⅰ（視覚伝達デザイン）	○	◎					○				○			造形言語の基本を理解し、メディアコンテキストの読み解き能力や制作能力を身につける
	デザイン表現演習Ⅱ（デザイン表現におけるテクノロジー）	○	◎					○				○			映像制作の基本を理解する。映像機器や編集機器の扱いが出来るようになる。
	デザイン表現演習Ⅱ（映像メディア表現）	○	◎					○				○			メディア表現に関わるテクノロジーやデザイン表現手法に親しみ、実践手法を身につける
	メディア表現演習Ⅰ（メディアアート）	○	◎					○				○			メディアアート表現の理解と作品制作ができるようになる。
	メディア表現演習Ⅰ（インスタレーション）	○	◎					○				○			メディアアート表現の理解と作品制作ができるようになる。
	メディア表現演習Ⅱ（インタラクション）	○	◎					○				○			メディアアート表現の理解と作品制作
	メディア表現演習Ⅱ（映像表現）	○	◎					○				○			メディアアート表現の理解と作品制作
	メディア情報演習Ⅰ（バーチャルリアリティ）	○	◎					○				○			VRのコンセプトについて学び、VRの意義について考察する。VRを構築する手法としての空間シミュレーションを作成できるようになる。
	メディア情報演習Ⅰ（3DCGシミュレーション）	○	◎					○				○			VRのコンセプトについて学び、VRの意義について考察する。VRを構築する手法としての空間シミュレーションを作成できるようになる。
	メディア情報演習Ⅱ（空間デザインへの応用）	○	◎					○				○			情報通信技術の空間デザインへの適用をテーマとした卒業研究を行うための知識、スキルを習得する。
	メディア情報演習Ⅱ（システム評価）	○	◎					○				○			情報通信技術の空間デザインへの応用をテーマとした卒業研究を行うための知識、スキルを習得する。
	芸術工学表現演習Ⅰ（認知科学とデザイン）	○	◎					○				○			
	芸術工学表現演習Ⅰ（インターフェースデザイン）	○	◎					○				○			
	芸術工学表現演習Ⅱ（データビジュアライゼーション）	○	◎					○				○			
	芸術工学表現演習Ⅱ（デジタル表現手法）	○	◎					○				○			
	先端芸術表現論	○	◎					○				○			「最先端芸術はいかにして教育的観点から豊かな社会を探索する手段となるのか？」 目標：履修者は上記のテーマに対して表現プロセスのデザインを通して自らの答えを導きだすことを目標とする。
	計画の論理	○						○				○			社会基盤施設の定義と特徴、社会基盤整備計画の枠組みや策定過程が示せ、計画に必要な予測手法や評価手法について説明することができることを到達目標とする。各回の授業内容は計画に記載のとおりである。授業を受講し、おさらいプリントをすべて提出した上で、その内容を復習することによって目標を達成させる。
	都市・交通計画	○						○				○			都市計画に関する基礎的な知識を修得する。(1~6回) 交通計画に関する基礎的な知識を修得する。(7~14回)
	環境を考える	○						○				○			人と環境のかかわりの変遷や環境問題に関する基礎的な知識を習得している。(授業計画1~15および定期試験による)
	自然災害のリスクマネジメント	○						○				○			1. 種々の自然災害の特性と防災対策の基本を理解する。 2. リスクマネジメントの基本と防災を進める上での要点を理解する。
	生態系の保全	○						○				○			1. 持続可能な社会の創造を担う技術者を目指す者として、従来型の社会発展の論理によってもたらされた生態系や生物の多様性の危機的現状を認識し、健全な生態系を保全・修復していくことの必要性を自覚している。
卒業研究	卒業研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	・卒業論文を完成させるために必要な知識を獲得すること ・一年間を通して学部で勉強した知識を文書化し、卒業論文を完成する ・テーマを設定し、卒業論文にまとめる ・卒業論文を作成できる